

葛城市

～歴史を重ね、未来を育む・時代を超えて愛される住みよい共存の都市（まち）～

奈良県北西部に位置する葛城市は、2004年（平成16年）に旧新庄町と旧當麻町の合併により誕生した市です。「市民第一の住みよいまちづくり」をキーワードに豊かな観光資源を活かしつつ、市民の生命と暮らしを守るため災害に強いまちづくりを目指し、更なる発展に向け様々な改革に取り組んでいます。

I 概要

1. 地理と歴史

葛城市は県北西部に位置し、北は香芝市、東は大和高田市、南は御所市、西は大阪府南河内郡太子町・河南町と接する人口37,809人、世帯数15,655世帯（2023年7月1日付 葛城市住民基本台帳公表データ）、面積33.72km²の市である。

アクセス面では市内に近鉄南大阪線、近鉄御所線、JR和歌山線の7つの駅があり、大都市圏への通勤・通学に便利な立地となっている。また大阪方面からは車でも最寄りの葛城IC（南阪奈自動車道）と大阪・松原JC（西名阪自動車道）とは15分で結ばれており、利便性は良好である。

葛城市の位置図



葛城市は、2004年10月、旧新庄町と旧當麻町が奈良県内初の合併をしたことで誕生した。古くより、豊かな自然、歴史と文化を守り伝えるまちであり、数多くの国宝や重要文化財を有する當麻寺、日本最古の官道である竹内街道、相撲の起源として日本で最初に天覧相撲をとったとされる當麻蹶速を伝承する葛城市相撲館（けはや座）など豊富な観光資源があり、訪れる人々を魅

了し続けている。

2. 産業構造

従業地による就業者人口（15歳以上）の産業別割合を見ると、第1次産業が3.0%、第2次産業が29.0%、第3次産業が68.0%となっており、奈良県全体（順に2.4%、22.1%、75.5%）と比べて第2次産業のウエイトが高くなっている（総務省「国勢調査 従業地・通学地による人口・就業状態等集計」（2020年））。

民営事業所数は、1,177か所（県内14位）で従業者数は12,137人（同14位）となっている。（総務省・経済産業省「令和3年経済センサス活動調査」）。

製造業の出荷額ベースではパルプ・紙・紙加工品製造業、化学工業、プラスチック製品製造業が上位を占めており、中でもパルプ・紙・紙加工品の出荷額は県内トップである。（総務省・経済産業省「経済センサス活動調査 製造業・地域別統計表データ」（2021年））。

3. 人口構造

奈良県内の他市町村の多くが人口減少傾向にある中、葛城市は人口増加が続いている。特に、年少人口（15歳未満）の割合は県内39市町村中1位となっている。

年齢階級別人口移動を見ると、就職や進学に伴う影響で20～24歳は転出超過となっているが、他の年代ではほぼ転入超過となっており、主に結婚や住居の購入などを機とした転居先として同市



葛城市公式マスコットキャラクター「蓮花ちゃん」

が選ばれていると考えられる。(総務省「国勢調査 移動人口の男女・年齢等集計」(2020年))。

II 「住みよいまちづくり」への取組み

2016年に就任、2020年から2期目となる阿古和彦市長は、就任当初より「市民第一の住みよいまちづくり」をキーワードに地域の立地や地勢に合わせた市民目線での改革に取り組んでいる。

株式会社東洋経済新報社が全国812市区を対象に公表している最新の「住みよさランキング2023」の総合評価で葛城市は全国34位、近畿地区では3位、奈良県では1位、「子育てしやすい自治体ランキング」では全国22位、大阪圏では1位となるなど、住みやすさの指標となる多くの項目で上位にランキングされている。

【住みよさランキングで葛城市が上位の項目】

- ・子供の公的医療費助成制度(全国4位)
- ・老年人口当たりの介護施設定員数(全国1位)
- ・転出入人口比率(全国1位)
- ・水道料金(全国76位)
- ・下水道料金(全国45位)
- ・20歳~39歳女性人口当たり0歳~4歳児数(全国31位)
- ・年少人口比率15.11%(全国31位)
- ・人口増減率0.84%(全国72位)

(株式会社東洋経済新報社 都市データバック2023年版出典)

同市が全国の自治体に先駆けて取組んだ施策として、2016年より子育てに悩みを抱えた市民の相談窓口を一本化し、臨床心理士・保健師・保育士・社会福祉士等の専門職員に気軽に相談ができる「子ども・若者サポートセンター」の設置があげられる。相談窓口は市民のニーズも高いことから、この施策は子育て世代を中心に高い評価を受けている。

また同市には高齢者の生活支援サービス体制の充実を目的に「生活支援コーディネーター」が配置されており、地域での自主的な支え合い活動を支援し、高齢者の積極的な社会参加や介護予防の推進を図っている。

このように全ての世代にとって「住みよいまち」を作ることが地域の発展につながる好循環^{※1}を生

み出すとの市長理念のもと、市民第一の目線に立った市政運営が行われており、人口の増加や住みよさランキングの上位といった成果として表れている。

※1【葛城市が取組む地域発展の好循環】

住民が満足する → 人々が集まる → まちが元気になる → 税金が増える → 行政サービスが充実する → 住民が満足する

III 農商・観光業の拠点「道の駅 かつらぎ」

葛城市は大阪市内や関西国際空港方面へのアクセスが良く交通ネットワークに恵まれている。特に葛城IC周辺は、奈良県の西の玄関口として産業・観光の拠点として注目されるエリアである。



賑わいを見せる道の駅「かつらぎ」

2016年11月に「道の駅かつらぎ」が「道の駅ふたかみパーク當麻」に続く市内2か所目の道の駅としてオープンした。「道の駅か

つらぎ」は葛城ICに隣接し、車で大阪市内まで約40分、東は大和高田市を經由し県東部に通じる奈良県中部の交通の要所に位置し、来場者は毎年100万人を超えている。奈良県下の道の駅では最大級の規模を誇り、地元の農産物を提供する直売所、地域の飲食事業者がテナントとして入居するフードコート等が充実、各種観光イベントが定期的に開催されるなど、観光客だけでなく地元客でも賑わっており「道の駅ふたかみパーク當麻」と共に、農商業及び観光の拠点として大きな役割を担っている。

【「道の駅かつらぎ」の主な役割】

- ①農業活性化
 - ・地元農産物の販売促進
 - ・離農対策や就労支援による農業活性化
- ②商業活性化
 - ・地元特産品の販売促進
 - ・地域ブランド商品の生産・開発
- ③観光活性化
 - ・情報交流棟での観光・地域情報の発信
 - ・イベント等の開催による賑わいの創出
- ④地域経済波及効果
 - ・農産物の販売を通じて耕作意欲の向上を図り耕作放棄地・遊休農地を解消
 - ・同じ葛城市内にある「道の駅ふたかみパーク當麻」との相乗効果による農商業の振興

IV 地域資源を活かした観光の振興

612年に創建され、国宝8件、重要文化財28件を所蔵する「當麻寺」、日本で最初に天覧相撲をとったとされる^{たいまのけはや}當麻蹶速を伝承する「葛城市相撲館（けはや座）」、日本最古の官道である「竹内街道」など市内には多くの地域資源があり、これらを利用した観光振興とブランド力強化によるまちづくりに取り組んでいる。



国宝や重要文化財を数多く所蔵する「當麻寺」

1. 「相撲発祥の地」を活かした観光振興

「葛城市相撲館（けはや座）」が所蔵する相撲に関する資料は1万2千点に及ぶ。けはや座は、本場所と同じサイズの土俵があり、上がって相撲体験ができる国内でも珍しい観光施設である。相撲は日本文化の代表的な存在で、特に欧米人観光客を中心に人気が高い。



(左) 葛城市観光大使 宮城野親方（元：白鵬）
(右) 葛城市相撲館（けはや座）の土俵

2023年2月、宮城野親方（第69代横綱：白鵬）が葛城市の観光大使に就任、同市が「相撲発祥の地」であることを積極的に国内外に発信している。

相撲はコロナ禍で大打撃を受けたインバウンド需要回復の有力なコンテンツであり、相撲を切り口とした観光振興が期待されている。

2. 日帰りの通過型観光から滞在型観光へ

葛城市は多くの観光資源に恵まれているものの、市内にはホテルや旅館などの宿泊施設が無く、市内での滞在時間は短い。その結果、観光消費額も少なく、通過型観光に留まり観光の産業化が十分図れていないことを課題としている。そこで市では通過型観光から脱却し、インバウンド需要を含めた滞在型観光の促進につなげるため、観光施設のキャッシュレス対応、無料Wi-Fi整備、観光HPの多言語対応などを通じ市内に新たな宿泊施設等を誘致すべく、インフラ整備を推し進めている。

3. 自然環境を活かした広域観光の促進

市内には二上山や葛城山の山麓の森林や河川からなる豊かな自然が広がるだけでなく、都市空間と田園や公園等^{※2}の自然が溶け込んだ風景を有している。自然環境を活かした登山道やハイキング・散策に適した観光周遊ルート策定など近隣自治体と様々な形での連携を進め観光振興における相乗効果が発揮されるよう新たな旅行商品の開発など広域観光の促進、拡充を目指している。

【近隣自治体と連携し観光周遊ルートの策定】

- ①竹内街道・横大路（大道）活性化実行委員会
 - ・日本最古の官道として竹内街道の魅力をもPR（大阪府・奈良県及び竹内街道沿いの10市町村が加盟）
- ②葛城修験日本遺産活用推進協議会
 - ・修験道はじまりの地として日本遺産に登録。葛城修験道沿線の魅力をPR（大阪府・奈良県・和歌山県及び近隣20市町村が加盟）
- ③ダイヤモンドトレール活性化実行委員会
 - ・大阪府・奈良県・和歌山県の府県境を縦走する全長約45Km長距離自然歩道の利用促進（大阪府・奈良県・和歌山県及び近隣10市町村が加盟）

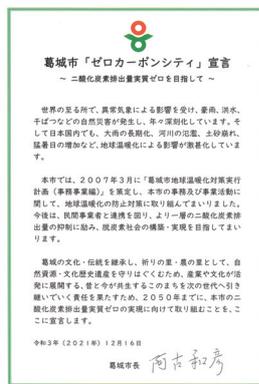


※2 市内にある緑豊かな公園
(左) しあわせの森公園、(右) 屋敷山公園

V 環境・防災問題への取組み

1. 「ゼロカーボンシティ」宣言

葛城市は2007年3月に「葛城市地球温暖化対策実行計画」を策定するなど環境問題に積極的に取り組んできた。阿古市長は近年の集中豪雨や台風など深刻な自然災害が顕著になっていることに強い危機感を抱き、地域から世界の脱炭素化に貢献すべきであるとの思いから、さらに踏み込んで2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロの実現に向け2021年12月「ゼロカーボンシティ」を宣言した。



「ゼロカーボンシティ」宣言 市庁舎や学校における照明設備のLED化、紙媒体から電子化への移行、太陽光発電システム等の設置補助事業に加え、市独自の取組みとして、家庭用の生ごみを太陽熱の利用で堆肥化する「おひさま堆肥事業」、菜の花の栽培・搾油を通じて自然環境や循環型社会への推進に寄与する「菜の花プロジェクト」等、持続可能な地域社会の実現に向け、行政・企業・住民等が連携を図りながら環境問題に真摯に取り組むことで「将来世代に豊かな自然を残す」との阿古市長の強い思いが施策に反映されている。

2. 災害に強いまちづくりを目指して

昨今の異常気象による自然災害の発生は、地域に大規模な被害をもたらすとともに、今後、人命にも危機が及ぶような事態が想定される。また南海トラフ地震が発生する可能性が高いと考えられており、災害や地震から市民の生命と暮らしを守るため、地域の災害対策への取組みが急務である。

近年多発するゲリラ豪雨や線状降水帯は、地域に大規模な水害をもたらす。大和川流域の上流に位置する同市は、市内及び下流域に浸水被害が及ばないように、市内に100以上あるため池を調整池化することで被害の極小化を図っている。

また災害発生時の避難所として利用する小・中学校、中央公民館、体育館の耐震化事業等をいち早く実施した。



自然豊かな葛城市山麓公園

今後、ハード面では当麻庁舎周辺施設整備や防災重点ため池の耐震補強工事、ソフト面では災害発生時に地域のリーダーとなる防災士への活動支援などハードとソフトの両面から災害発生に備えた体制づくりを進めている。

「住みよいまち」として高い評価を受ける葛城市であるが、阿古市長はインフラ整備など改善の余地はまだ残っていると考えており、商業・住宅エリアと山麓エリアに大別される各地域の事情を考慮し、地域毎に施策を変えるなど、独自の工夫も行っている。

また市民の人口構成において、特定の地域・世代に偏りが生じないように大規模な住宅開発等は行わず、地域や時期の分散化を図ることで安定的、均衡的な発展を目指している。

阿古市長は「選ばれる自治体として今後最も重要なキーワードは“安全”」と語る。地球温暖化による自然環境の変化により、日本国内でも大雨の長期化、河川の氾濫、土砂崩れなどが頻発しており、市民の生命と暮らしを守るため「災害に強いまち葛城市」を目指して今後も様々な対策に取り組んでいく意向だ。

市民がより快適に住み続けられるよう、地域発展の好循環を生み出し続けるための改革に邁進する同市の取組みが今後も注目される。

(井上主税、秋山利隆)